

カリブ海に浮かぶドミニカ共和国で開かれた「ドミニカ日本人移住50周年記念祭」の光景は、今でも鮮明に覚えてい



ます。私がドミニカ移住者問題に取り組み始めたのは今から10年前。ドミニカ日系人協会会長の嶽金徹さんや、木村庫人さん、玉手秀雄さんらから受けた陳情がきっかけでし

た。

「カリブの楽園」との政府のうたい文句にだま

全力投球!

国会議員レポート

衆院議員

東 順治

され、1956年から3年間でドミニカ移住した249家族1319人は、荒地地同然の土地で過酷な生活を強いられ、それは移住というより「棄民」そのものだった

認められたものの、今度は20年間の「時効」の壁で請求は棄却。私は、「これでは到底ダメだ」と救済策を政府に申し入れるなど和解案作りに奔走した結果、「率直に反

びを分かち合いました。そして帰国後、ドミニカ移住者を救済する法律を自民、民主両党の議員とともに議員立法として成立させ、移住50年目にしてついに、長い苦闘に終止符を打つことができました。

ドミニカ移住者に寄り添って

のです。

救済を求めても押せども引けども動かない政府に対し、移住者はずいに訴訟へ。2006年6月

省し、おわびする」との画期的な首相談話が発出され、控訴取り下げに至ったのでした。

しかし、日系人社会の融和や融資返済の問題など、未決着の課題はまだあります。

の判決でようやく国の賠償責任は

「記念祭」が行われたのはその直後。私は衆院訪問団の団長として参加し、移住者の皆さんと喜

すべての課題の解決を願い、移住者に寄り添うように今も闘っています。